建築系職訓校の研修生、石川県加賀市に集う

第45回 全国職訓生交流集会

東京建築カレッジの母体、東京土建一般労働組合が加入する全国建設労働組合総連合の傘下に建築系の認定職業訓練校が約70校あります。本校は唯一の短期大学校（高度職業訓練専門課程）です。毎年、交流集会が行なわれています。今年は6月8～9日に石川県加賀市で行なわれ、1年生2人、2年生2人、小林謙二学校長、長谷部浩講師、事務局2人が参加しました。

入職者増を阻むものは何か、説明する全国の職訓生。左端は2年生、鴨志田黎さん

職訓生交流集会は大きく2つの課題で構成されています。1つは各校の代表による「ミニ弁論大会」。もう一つは「新規入職者を増やすためにどうしたらいいか」を共通テーマにした班別の討論と発表です。学校の枠を超えた貴重な交流の機会となりました。

江草 千尋さん

江草千尋さんのミニ弁論（全文）

建築カレッジからは、ミニ弁論大会に江草千尋さん（2年生＝第21期生）が出場、カレッジに入学するまでの経緯や今後の抱負を堂々とスピーチしました。感動的だった江草さんのミニ弁論の発言原稿を全文紹介します。

私は、現在、東京都内の工務店で働いています。

まず、私がどうして大工という職業を選んだかをお話しします。

出身は広島で、大学時代は栄養士になるための勉強をしていました。しかし、だんだんと興味が薄れてしまい栄養士として働く自分の姿が想像できずにいました。そうやって、もやもやしたまま3年目を過ごそうとしていたとき、**何も実務経験のない自分だけれど何かできることをしたいと思い、ボランティアに行くことを決めて東北の地を訪れました。**その際、建物が流された跡地を見て衝撃を受けたのを覚えています。今なら、家を一棟建てるための費用と時間を考えると仕方のないことだったのかもしれませんが、当時の私にとっては**震災後1年経っていてもその状態だったことが衝撃的でした。そしてその時、建築の技術と知識を身につけたいと思いました。**

○　○　○

広島に帰った後、私はあと1年残っていた大学をやめて、広島の職業訓練校に通いたいと親に申し出ました。しかし母は、「あと1年なのだから大学は卒業して、資格を取得してほしい」と、許可をもらうことができませ

第19回公開講座　7月16日（日）

古民家再生ブームをどう生かすか

と　き：7月16日（日）
　　午後1時～4時半
ところ：立教大学 池袋キャンパス
　　8号館　8201教室
主　催：
職業能力開発短期大学校
東京建築カレッジ
入場無料。会場整理の都合で、事前に受講登録票をご提出ください。

基調講演は内田青蔵さん（神奈川大学教授）

建築カレッジの実技実習では、規矩（きく）術を理論的基盤とする日本の大工技術を手刻みにこだわって学びます。今の新築現場ではほとんど見られない作業ですが、古民家再生のフィールドでは、カレッジでの学びの値打ちが光ります。今回の公開講座は本校の存在意義を再確認する場になります。

受講登録票はカレッジHPからダウンロードできます！

カレッジ通信

発行
東京建築
カレッジ

授業見学
大歓迎！

TEL
03-
5950-1771

☆第23期生（来年4月入学生）募集中！
☆若手社員の育成に、建築カレッジを利用したい
　研修生派遣事業主も募集中！
自社で新人を採用・育成する事業所を応援します。

「大工をやりたい」と建築系サイトに

班討論の内容を発表する佐藤裕貴さん（1年生）、1年生からは神保遼誠さんも参加しました

んでした。「1度始めたことは最後までやりぬいてほしい」という思いがあったのだと思います。しかし、当時の私は反発して、勝手にオーストラリアに行く計画を立てました。自分では考えて行動しているつもりでも、それが伝わらず、親にもゼミの教授からも「お前は口だけだ」といわれ、悔しい思いをしたのを覚えています。そこから、何事も口に出すだけではなく、膨大な下準備が必要なことを学びました。

そして私は、**口だけではないということを証明するためにも、必死で働きながら勉強し、国家試験も合格して、大学を卒業しました。**そして、帰国後のプランを考えたうえで渡豪したのち、昨年から東京の工務店で大工見習いとして働かせてもらっています。

○　○　○

次に会社との出会いについてです。女性である私を雇ってくれた会社との出会いは、**インターネットの建築系サイトに、私が「大工をやりたい」と書き込みをしたのがきっかけでした。**オーストラリアにいる間に連絡を取り、帰国後さっそく面接に行くと翌日採用してもらいました。その時、社長には「男性と同じことするようには求めていないから、自分のできることを見つけてやりなさい」と言ってもらいましたが、それ以上に「大工を始めるのに遅くはないけれど、早くはないよ」という言葉が印象的でした。私は昔から体力には自信があり、男社会にも慣れていたほうだったので大丈夫だろうと思っていましたが、実際に大工仕事を始めてみると、やはり身体的な力の差を感じることは多く、最初のうちは初めてやることばかりで、何もできずに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

加工をするようになっても思った以上にうまくいかず、悔しい思いをすることが多々ありました。そうしていると自分は何しに来たのだろうと、地元を恋しく思うこともありました。しかし、他の人のやり方を見て真似したり、自分のできることを続けているうちに、少しずつできることをやらせてもらうことが増えてきて、今は自信につながりつつあります。

○　○　○

次に、カレッジについてです。工務店で働き始めてから2か月後、**「建築の基礎を学び、横のつながりを作ってほしい」という社長の勧めで東京建築カレッジに入学しました。**カレッジでは、道具作りの基礎から学ぶことができ、普段の仕事からは学ぶことのできない伝統工法や図面の描き方を学んでいます。仕事と学業を同時にこなすのはとても大変ではありますが、学んだことを双方に活かすことができるのでとてもいい環境だと思います。

最後に、今はまだ目の前のことに精一杯で、以前のようにボランティア活動などをするする余裕はありませんが、今のうちに力をつけて、**いずれは仕事でも、それ以外でも人を喜ばせることができるような人材になりたいと思っています。**まだまだ、学ぶことは多く乗り越えるべき壁もあると思いますが、周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れず、これからも努力していきたいと思います。

左写真＝6月24日実施の第21期生の「林業研修」。急斜面の下草刈りを体験しました

建築カレッジの授業の様子は、公式Facebookページで閲覧できます。「いいね！」を！

1年生の授業から「カレッジフレーム」

墨付けと加工の精度によって完成度に大きな違いが出る。道具の手入れの大切さも学ぶ。

基本となる継手、仕口の墨付け・加工の経験の次の段階の課題が「カレッジフレーム」（6月3日から全５回の実習）と呼ばれる複合構造体です。いよいよ立体架構へ。図面を読み取り、板図を作り、班に分かれての「木造軸組実習」が7月からスタートします。柱と梁で建築する醍醐味を小屋作りで体感していきます。 初回は7月14日（金）午後１時から（江東実習場）。授業見学を歓迎します。